

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 4クラス126名の幼児が在籍し、さまざまな遊びを友達と一緒に楽しんでいる。しかし、気の合う友達や先生など特定の人とのかかわりが多く、かかわりの幅が広がりにくい子どももいることから、25年度より、異年齢交流保育に取り組み、成果をあげている。一クラスの人数が多く、支援を要する幼児も多数在籍する現状から、交流計画や取り組み方法を再構築する必要がある。
- さまざまな人とかかわりを、さらに広げていく取り組みを充実させる。
- 防災・安全教育の推進をさらに進め、子どもも大人も生命を守る意識の向上を図る。
- 体を動かす経験が、幼稚園内外で少なくなっている。自分で進んで体を動かし、楽しんで遊べる環境を整えていくことで、体力の向上、健康につながるよう充実させる。
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を育むために、発達段階や季節に応じた遊びを充実させる。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年90%以上にする。
- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「幼稚園の生活や遊びの中で、いろいろな友達とかかわる機会が多くあった」「年度当初よりいろいろな友達とかかわって遊ぶようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年95%以上にする。
- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域の人々や小学生）との交流活動に興味をもつようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年90%以上にする。
- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「年度当初より自分の思いを友達に伝えられるようになった」「年度当初より友達の思いに気づき、考えられるようになった」「保護者の方が、人権に対して考える機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」「幼稚園は発達段階や季節に応じた遊びを工夫している」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年90%以上にする。
- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「年度当初より栽培活動を通して、身近な自然に親しんだり、関心をもったりするようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年95%以上にする。
- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「年度当初より手洗い・うがいの習慣が身についた」「年度当初より歯みがきの習慣が身についた」「年度当初より食べ物（特に野菜）に関心をもつようになった」「年度当初より食べる時のマナーについて知ったり身についたりした」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年80%以上にする。
- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

幼稚園の年度目標

- 今年度末の保護者アンケートにおいて「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園の生活や遊びの中で、いろいろな友達とかかわる機会が多くあった」「年度当初よりいろいろな友達とかかわって遊ぶようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を95%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域の人々や小学生）との交流活動に興味をもつようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より自分の思いを友達に伝えられるようになった」「年度当初より友達の思いに気づき、考えられるようになった」「保護者の方が、人権に対して考える機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

幼稚園の年度目標

- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」「幼稚園は発達段階や季節に応じた遊びを工夫している」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より栽培活動を通して、身近な自然に親しんだり、関心をもったりするようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を95%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より手洗い・うがいの習慣が身についた」「年度当初より歯みがきの習慣が身についた」「年度当初より食べ物（特に野菜）に関心をもつようになった」「年度当初より食べる時のマナーについて知ったり身についたりした」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を80%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度は、体を動かす遊び、栽培教育活動や食育、安全教育、言葉の分野に力を入れて取り組んだ。年度末保護者アンケート結果では15項目中14項目において、高評価の割合が目標を大きく上回ったり達成できたりした。このことは、取り組んできたことが成果を上げ保護者に評価された結果だと思われる。次年度も引き続き継続して取り組み、成果を積み上げていきたい。

また、達成できなかった1項目については、取り組みが実感できない学年があったものと思われ、取り組みの様子や子どもの育ちなどを周知していくことで理解を広めていきたい。しかし達成できなかったものの年度当初から3学期に向かって高評価は上昇しているため、今年度の取り組みを総括すると、年度目標は十分に達成できたものと考えられる。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>幼稚園の年度目標</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 90%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園の生活や遊びの中で、いろいろな友達とかかわる機会が多くあった」「年度当初よりいろいろな友達とかかわって遊ぶようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 95%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域の人々や小学生）との交流活動に興味をもつようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 90%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より自分の思いを友達に伝えられるようになった」「年度当初より友達の思いに気づき、考えられるようになった」「保護者の方が、人権に対して考える機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 85%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>安全に気をつけて行動する力をはぐくむ指導に取り組む。</p> <p>指標：交通安全指導、防犯指導の年間計画を作成し、計画通りに実施する。 避難訓練の年間計画を立て、実施する。 学期に 1 回、教材研究を行う。 月 1 回、保護者と協力して登降園指導を行う。 年 3 回、保護者に取組内容の情報を発信する。</p>	A
<p>取組内容②【施策 2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>園児の交流活動を計画的に行い、様々な人々とかかわる力をはぐくめるよう指導する。</p> <p>指標：「なかよし集会」「なかよしタイム」「すくすくタイム」をそれぞれ月 1 回以上行う。</p>	A
<p>取組内容③【施策 2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>地域の人々や保護者と連携して教育をすすめる。</p> <p>指標：学期に 1 回以上、地域の人々や小学生との交流活動を実施する。 学期に 1 回以上、人権教育につながる親子の活動を実施する。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>取組内容①【施策 1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導、防犯指導の年間計画を作成し、計画通りに実施した。 避難訓練の年間計画を立て、計画通り実施した。10 月と 1 月の避難訓練では保護者への引き渡し訓練を行った。保護者の方にも避難訓練の様子を見ていただき、非常時の登降園経路を見直してもらった機会となった。また、クラスで話し合い、目標をたてて取り組んだことで、真剣に取り 	

組むことができた。また、警察署・消防署の方に来園していただき、実際に消火器の扱い方や消防車を見たことも、関心をもつきっかけになった。

- ・一学期始業式でパペットを用いて交通安全について伝えたことで、保護者が意識をして手をつなぎ、路側帯を歩くなどする様子があった。2学期には遠足に向け、床にビニールテープを貼り、横断歩道を渡る練習をした。3学期には、園内での安全に関するポスターを子どもたちが作り、気をつけようとする姿があった。
- ・月一回保護者と協力して登校園指導を実施した。よかった点・悪かった点などを毎回手紙で伝えたことで、交通ルールを守ろうとする人が年度当初に比べて増えたと感じられる。
- ・学期ごとに、安全に関する取り組みを紙にまとめ、掲示して保護者に知らせた。
- ・保護者アンケートでは、高評価（あてはまる・どちらかといえばあてはまる）は99%になり、目標を超えたので進捗状況はAとするが、今後更に教材研究の工夫をしていく。

取組内容②【施策2、道徳心・社会性の育成】

- ・以下の内容で実施した。

	なかよし集会（全体での活動）	すくすくタイム （異年齢ペアの活動）	なかよしタイム （同年齢での活動）
4月	ふれあい遊びをする 「つんつんとんとん」 体操をする「サンサン体操」 「おやつたーべよ」 「動物体操1, 2, 3」	5歳児が4歳児の世話をする ・登園時に門までお迎え ・朝と帰りの身支度 ・お弁当の用意 ・発育測定	④一緒に遊ぶ時間を設ける 体操やなかよし遊びをする ⑤入園式ごっこをする なかよし遊びをする (グループごっこ じゃんけん遊び)
5月	体操をする「だんごむし体操」 ふれあい遊びをする 「だいすきツイスト」 かけっこをする 子どもの日の話を聞いたりつくったものを見せ合ったりする	園外保育で一緒に歩く ふれあい遊びをする 「じゃんけん列車」	④園内の自然探検を楽しむ 虫探しや幼虫の世話をしながら自然に触れて遊ぶ 図鑑を見ながら探検する ⑤ひっくり返しゲームをする 体操をする「げんきつき体操」
6月	体操をする「カエルの体操」 プールの約束事を確認する ふれあい遊びをする 「じゃんけんパラダイス」	公園清掃をする ふれあい遊びをする 「せんたくごっこ」	④色水遊び 色水をジュースに見立てて、ジュース屋さんごっこを楽しむ ⑤雨探検をする 色水遊びや泥団子作りをする プール遊びをする 盆踊りを踊る
7月	盆踊りを踊る 七夕の話を聞いたり歌を歌ったりする	笹に飾りをつける 夏祭りを一緒に回る プール遊びをする	④プール遊びをする クラス混合で交流しながら、水遊びをする ⑤プール遊びをする 遊具・用具を洗う
9月	体操をする 「よーいどん！」 「わらうんだ WA!」 歌を歌う 「運動会のうた」	弁当を食べる ペアの友達と一緒にダンスを踊ったりふれあい遊びをしたりする	④運動会ごっこ（虫たちの探検） 虫たちが探検する森の迷路のコースづくりを一緒に考えたり、遊具をつくったりする ⑤一緒に歌を歌う 運動会ごっこをする (綱引き、リレーなど) サーカスごっこをする
10月	運動会ごっこをする 音楽会ごっこをする	運動会遊びを教え合う バルーンで遊	④簡単なルールのある運動遊びを楽しむ 鬼ごっこや転がしドッジボールなどを誘い合って遊ぶ ⑤音楽会ごっこ 一緒に弁当を食べる
11月	こどもてんらんかいでの活動や作品を見合う	あいさつ当番を一緒にする 公園清掃をする	野菜の収穫をする

1 2月	やきいもパーティーをする お楽しみ会で一緒にダンスを踊る	こま遊びをする 年長児の視覚教材を使った遊びを見る	たこあげをする えほんの会やお話しの会に参加する 広場で（園外保育）で一緒に遊ぶ
1月	ランチパーティーをする マラソンをする	あいさつ当番をする 一緒に歌をうたったり手遊びを教えたりする 歌やお話し遊びを見合う ふれあい遊びする「こすれこすれ」	④ふれあい遊びをする「ともだちできちやった」 ⑤楽器で遊ぶ 劇遊びの道具を使って一緒に遊ぶ
2月	マラソンをする 劇遊びや楽器遊び、歌を見合う ランチパーティーをする	一緒に歌をうたったり手遊びを教えたりする 歌やお話し遊びを見合う 手をつないで園外保育へ行く	④あいさつ当番をする ⑤ふれあいあそび「ラウンドチェーン」 歌をうたう 修了式のことばを考える

- ・1学期は入園式で5歳児が4歳児を迎え入れてから、登園時に門まで向けに行ったり、朝や帰り、弁当の用意を手伝ったりした。始めは緊張している様子だったが、徐々に5歳児は「できる？」と声をかけるようになってきたり、4歳児も「教えて」と言うようになってきたりもした。好きな遊びのときには、感触を楽しむ遊びを取り入れ、楽しみながら自然にかかわる姿が見られるようになってきた。
- ・2学期になり運動会ごっこを中心に一緒に体を動かしながらかかわることが多くなった。4歳児は虫になって、5歳児はサーカスのイメージの中で遊び、同年齢では遊びの内容や場を考えたり用意したりし、気持ちを通わせて遊んでいた。4クラスが混合チームをつくって弁当を食べたりふれあい遊びをしたりといろいろなクラスの友達や先生とかかわる機会をもった。好きな遊びの時にはいろいろなクラスの友達と一緒にリレーごっこをしたりチャレンジ遊び（一輪車、フープなど）をしたりする自然なかかわりが増えた。
- ・3学期になると、好きな遊びのときに一輪車や縄跳び、くるりんスキップなど5歳児の姿を見て、4歳児もすすんでいろいろな遊びに挑戦するようになってきた。ドッジボールを一緒にしたり、互いの劇遊びに興味をもち同じイメージをもち遊んだりする姿も見られるようになってきた。こま遊びも4歳児から「教えて」と保育室に遊びに来たり、5歳児が「教えにいい？」「この道具、小さい組さんに貸してあげたい」などと、すすんで関わろうとする姿が増えてきた。
- ・いろいろなクラスの友達や先生と弁当を食べたり遊んだりできるランチパーティーの時間を設けた。今年度最後の園外保育は一緒に手をつないで行った。おわかれ会では気持ちを込めてプレゼントをつくったり一緒に遊んだりした。4クラスが合同になることで、いろいろな友達や先生と関わる楽しさを感じている様子がある。
- ・保護者アンケート2項目とも99%と大きく目標に達したため、進捗状況をAとした。

取組内容③【施策2、道徳心・社会性の育成】

- 6月20日 福島区女性会のみなさんに盆踊りを教えていただき、地域行事への関心が高まった。
- 7月11日 吉野小学校6年生と5歳児がプール交流を実施した。
おひさま広場も月1回以上実施し、在園児が未就園児と一緒に好きな遊びをしたり体操をしたりする中で「優しく接する」「遊具を譲る」「自らすすんで挨拶をする」ということに意識して参加することができた。
- 8月24日 吉野小学校のチアリーリングチームが来園し、ダンスを披露したり園児たちと交流したりした。
- 9月20日 老人会のみなさんと公園清掃を実施し、一緒に掃除に励んだり話をしたりしながら交流を深めた。掃除の姿勢を褒めていただいて子どもたちも嬉しそうだった。
- 10月12日 音楽会合同練習の際に八坂中学校の先生から、さらにきれいな声で歌うための指導をしていただいた。歌うことの気持ちよさや楽しさを感じるきっかけになった。

- 10月23日・24日・30日 野田中学校の職場体験を実施した。中学生のお兄さんやお姉さんと身体を動かしたり折り紙遊びを教えてもらったりして関りを深めた。
- 11月23日 こどもてんらんかいの地域公開の際に、地域の方が来られ幼児の発達や教育活動の内容にも関心をもちながら子どもたちの作品を見ていただくことができた。
- 2月28日 近隣の保育園と一緒に、吉野小学校と交流した。一緒に歌をうたったり遊んだりしてふれあったり、小学校での生活や学習内容に興味をもてるようにしたりした。

・おひさま広場は、月に1回以上未就園の子どもが幼稚園に遊びに来て在園児と一緒に遊んだり、保護者同士も関わりを広げたりできるようにしている。

4月18日	まつぐみ	体操をする「物体操1, 2, 3」
5月8日	ばらぐみ	体操をする「サンサン体操」
6月12日	さくらぐみ	体操をする「カルの体操1, 2, 3」
8月29・30日		体操をする「エビカニクス」、水遊び、プール遊び
9月11日	ふじぐみ	体操をする「よーいどん！」
22日	まつぐみ	パラバルーンで一緒に遊ぶ
10月8日	4歳児	かけっこでおみやげを渡す
11月17日	ふじぐみ	体操をする「ラーメン体操」
27日	まつぐみ	遊びの場を整えたり受付をしたりする
12月11日	ふじぐみ	かけっこをする
18日	まつぐみ	遊びの場を整えたり受付をしたりする
1月15日	ばらぐみ	体操をする「ラーメン体操」
19日	さくらぐみ	体操をする「ラーメン体操」
2月26日	さくらぐみ	受付をしたり一緒に手をつないでいる

- ・初めは、小さい友達とどのように関わればよいかわからず戸惑う姿もあったが、回数を重ねるにつれて、元気よく挨拶をしたり積極的に受付をしたりするようになってきた。遊びの場を用意したり遊具を優しく譲ったりするようにもなり、「毎回遊んでくれるお姉ちゃんがいる」と未就園児の保護者が嬉しそうに話してくれることもあった。
- ・おひさま広場ではすすんで受付をしたり、「また来てね。」と帰りに声をかけたりする姿が多くなった。「お友達になってん。」「○○ちゃんっていうねんで。」と親しみをもってかかわるようになった。
- ・人権については降園時に以下の活動に取り組んだ。

5月	よろしくゲーム(相手の名前や好きな○○を伝え合った後、自分の名前を書いたシールを交換し合う遊び)普段関わりのない子どもや保護者と話をし、相手のことを知る)
各月	絵本を読む。絵本を読んだあと保護者は自分の子どもとは違う子どもたちとグループを組み、思いや考えを話したり聞いたりした。話し合いをしたことで相手に伝わるように話した。 5歳児「も～ウシです」「くれよんのくろくん」 「となりのたぬき」「おまえうまそうだな」「あやちゃんのうまれたひ」 「またおこられてん」 4歳児「からだのなかでドゥンドゥン」 「おへそのあな」「くれよんのくろくんとしろくん」 「もりのせんたくやさん」「ともだちほしいな おおかみくん」 「ともだちや」「ともだちひきとりや」

絵本を読んだり、みんなで話し合ったりする中で、耳を傾けてゆっくりと思いを受け止めてもらう喜びを感じる姿があった。みんながかけがえのない存在であることを保護者と一緒に感じて

いた。園だよりで「今月の人権絵本」を毎月2冊紹介し、人権教育の啓発のきっかけ作りを行っている。また、新たな人権に関する絵本を増やし、保護者と一緒に絵本を通して人権教育について考えられるような環境をつくった。

- ・ 行事の際に取り組みを話す際に、劇遊びや楽器遊びなどを通して子どもたちが経験してきた“友達と協力することの大切さ”“様々な思いや考えをだし合って遊びをつくりあげのおもしろさ”などを話したり掲示を用いたりして保護者に伝えた。
- ・ 年度末保護者アンケート7項目では、項目「～園外の人々～」が87%と目標に達しなかったが年度末に向けて高評価が8%上昇したこと、他6項目は目標に達したことから、進捗状況をBとした。

次年度への改善点

取組内容①【施策1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】

- ・ 子どもたちがより安全への意識を高めていけるような教材研究の工夫を図る。

取組内容②【施策2、道徳心・社会性の育成】

- ・ ペアクラスを決めて安定した関係をつくったり、様々なクラスとかかわれるようにしたりするなど、子どもたちの実態と合わせながら計画的に交流活動を行えるようにする。また、取組みを周知理解してもらう工夫をする

取組内容③【施策2、道徳心・社会性の育成】

- ・ 引き続き、公園清掃やおひさま広場などを計画的に行い、様々な人々とのかかわりを大切にしていけるようにする。
- ・ 絵本は子どもたちにもわかりやすく、保護者にとっても身近に子どもと一緒に考えられる教材であるので、精選しながら保護者への人権教育啓発のツールとして活用の仕方を工夫していく。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>幼稚園の年度目標</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」「幼稚園は発達段階や季節に応じた遊びを工夫している」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 90%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より栽培活動を通して、身近な自然に親しんだり、関心をもったりするようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 95%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より手洗い・うがいの習慣が身についた」「年度当初より歯みがきの習慣が身についた」「年度当初より食べ物（特に野菜）に関心をもつようになった」「年度当初より食べる時のマナーについて知ったり身についたりした」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 80%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 90%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>子どもの発達段階や季節に応じた遊びの内容や指導法を工夫する。</p> <p>指標：年 10 回園内研究会、年 1 回指導要請による研究保育を実施する。 学期に 1 回、各学年で教材研究を行う。</p>	B
<p>取組内容②【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>家庭でも健康や体を動かす遊びに興味をもてるよう、保護者への啓発を行う。</p> <p>指標：月 1 回、園だよりにより体を動かす遊びを掲載する。 月 1 回、保護者と子どものふれあい遊びをする。</p>	A
<p>取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>栽培活動を通して、野菜の生長に関心がもてるような活動を工夫する。</p> <p>指標：「西野田 SUN サンファーム」の充実を図り、夏野菜や冬野菜の栽培活動に取り組む。</p>	A
<p>取組内容④【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>「食生活に関する保健指導の年間計画」を立案し、実践する。</p> <p>指標 毎月、実施計画案どおり（別紙参照）に、食生活に関する保健指導を実施する。</p>	A
<p>取組内容⑤【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>発達段階や興味関心に応じて、言葉に関するいろいろな体験や遊びをする。</p> <p>指標：年 3 回、講師による絵本の読み語りを実施する。 年 5 回以上、講師による英語に親しむ活動を実施する。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】

・以下の通り、園内研究保育及び指導要請を行った。

月	クラス	内容	学んだこと
5月	ばら (4歳児)	増え鬼	4歳児のこの時期の、簡単なルールのある遊びについて、子どもの実態からよりよい指導法について学んだ。
7月	ふじ (5歳児)	プール遊び	ひっくり返しカードやカラービニールひもなどの教材を取り入れた保育から、教材の工夫の大切さを改めて学んだ。
9月	全クラス (指導要請)	体を動かす遊び	4歳児は虫のサーキット、5歳児はサーカスごっこでの子どもの実態に合わせた教材作り
10月	さくら (4歳児)	鬼遊び 「むっくりくまさん」	子どもが大好きな歌に合わせた鬼遊びの保育から、鬼遊びの教材について知識を深め教材研究を図ることができた。
12月	まつ	OHP遊び「うさぎ野原のクリスマス」	曲の歌詞からイメージしたことを遊びや活動を中心に組み組んだ。グループで絵にして OHP 機器で映した。OHP 機器の様々な活用方法を知ることができた。
1月	まつ	劇「そんごくう」	各クラスの生活発表会に向けた、取り組みを中心に園内研究保育を行った。子どもの実態に沿った活動の展開方法や指導法を教師同士で学び合うことができた。
1月	さくら	劇「てぶくろ」	
1月	ばら	劇「もりのおかしやさん」	
1月	ふじ	劇「ピーターパン」	
3月	保健指導	体の成長について	1年間の成長を、子どもが自ら実感できるような指導方法・内容を考えた。子どもの様子や教師同士の考えを伝え合い、よりよい指導方法を考えることができた。
3月	誕生会	先生からのプレゼント 「1年間の思い出」	教師みんなで協力して、子どもたちが今の時期に楽しめる出し物を考えた。どうすればより見えやすいか、スムーズかなど、様々な視点から考え合うことができた。

園内研究、指導要請後には反省・討議会を設け、教材研究、保育の進め方、一人ひとりの子どもに応じた援助など、学び合うことができた。

・教材研究を学年で行った。

5歳児	1学期	・プール遊びの教材（船・カラービニールひも、ひっくり返しカード、水鉄砲的） ・チャレンジ遊びについて（フラフープ、一輪車、竹馬、ボール、縄等の運動遊具のコツや補助の方法について学ぶ）
	2学期	・チャレンジ表について（子どもの実態に応じた目標を指標にしたチャレンジ表） ・うんていの活用方法（綱渡りができるようにする） ・製作遊び（技遊びの飾り方、土粘土の技法など）
	3学期	・生活発表会で用いる大道具や小道具などを、イメージを広げたり、自分で扱えたりするように工夫した。（「そんごくう」の岩の立て方、戦いの場面で用いる小道具、「ピーターパン」のイメージが膨らむ役に応じた小道具など）
4歳児	1学期	・くるりんスキップ ・しっぽとりのしっぽ
	2学期	・虫のサーキット（ダンゴムシ、バッタなど、虫のイメージをふくらませながら楽しめるサーキットを考える） ・自分たちでつくったパラバルーンで遊ぶ
	3学期	・木製パカポコに取り組みめるよう、エース棒やフープ、ゴムハードルを用いて、パカポコのコースを考えた。 ・生活発表会で用いる大道具や小道具などを、4歳児の子どもに扱いやすいものになるように考えた。（「てぶくろ」の雪山の大きさ、「もりのおかしやさん」のケーキの大きさなど）

子どもの発達段階や興味に合った教材を試行錯誤をしながらつくり出すことができたので、進捗状況をBとした。今後も園内研究の着実な実施と教材研究を計画的に行うようにしていく。

取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ・月に1回、保護者と子どものふれあい遊びを行った。

月	4月	5月	6月
5歳児	・つんつんとんとん ・かもつれっしや	・よろしくゲーム	・ラウンドチェーン
4歳児	・しあわせなら手をたたこう	・よろしくゲーム	・あらってあらって
月	7月	9月	10月
5歳児	・盆踊り	・やきいもグーチーパー	親子競技 ・「ぐるぐるタイフーン」
4歳児	・盆踊り	・おしりタッチ ・アンパンジャムパンフライパン	親子競技 ・「よいしょ、よいしょ」
月	11月	12月	1月
5歳児	・島鬼ごっこ ・転がしドッジボール	・ジングルベルのダンス ・ふれあいたこあげ ・いっぴきのぞうさん	・こすれこすれ
4歳児	・しあわせなら手をたたこう ・ボールのダンス	・ジングルベルのダンス ・ふれあいたこあげ ・いっぴきのぞうさん	・こすれこすれ
月	2月	3月	
5歳児	・じゃんけん遊び	・誕生月なかま	
4歳児	・じゃんけん遊び	・誕生月なかま	

普段はゆっくりふれあうことが難しい保護者と子どもも、存分にかかわることができ、嬉しそうだった。また、回数を重ねることで、保護者と子どもがかかわりをもてるようになってきた。

- ・毎月、園だよりにて体を動かす遊びを掲載した。家庭でも取り組みやすい内容を考えた。

5月	親子ふれあい体操「ロボット歩き」
6月	親ふれあい体操「おうちの人が開いた足の上を跳ぶ」
7月	親子ふれあい体操「おうちの人の背中の下をくぐる」
9月	親子ふれあい体操「トンネルにらめっこ」
10月	親子ふれあい体操「おしりタッチ」
11月	親子ふれあい体操「ジャンケン足ふみ」
12月	親子ふれあい体操「足裏合わせてストレッチ」
1月	親子ふれあい体操「跳び越しくぐり」
2月	親子ふれあい体操「ジャンケンこちょこちょ」
3月	親子ふれあい体操「すばやくタッチ」

- ・年度末保護者アンケートでは、高評価が100%となり目標を大きく上回ったので、進捗状況をAとした。

取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- ・クラスごとに育てる夏野菜（まつ組：オクラ、ふじ組：枝豆、ばら組：落花生、さくら組：かぼちゃ）を話し合っただけで、「西野田 SUN サンファーム」でクラスごとに1畝ずつ場所を確保し、栽培活動に取り組んだ。5歳児は水やりをグループで当番制にしたり、変化や気づきをクラスで伝え合う場を設けたりし、4歳児はクラス全員で水やりをしたり、雑草抜きをしたりし

- て、学年ごとの子どもたちの様子をふまえて栽培活動を進めるようにした。
- 夏野菜の栽培期間中は、週1回以上クラス全員で「西野田 SUN サンファーム」に行くよう計画し、栽培している様々な野菜に触れて観察をしたことで、花の色や葉の形、感触などの特徴に関心をもつ姿がみられるようになってきた。気温が高い日や短縮保育中のプール遊びがある日は観察が難しく、生長の過程を見逃したりしたところもあった。次年度は、栽培活動を普段の保育のなかでどのように取り組んでいくのか、教師が意識的に計画して取り組んでいく必要がある。
 - 日常の保育のなかで、栽培している野菜の葉っぱの形や大きさの違いに関心が向くように投げかけたり、葉や茎、ツルなどを教材として遊びの中に活用したりした。
 - 個人の植木鉢で育てている夏野菜（ピーマン、ミニトマト、ナス）は、親子で栽培活動に取り組めるように、表示方法を明確にしたり、定期的に野菜の世話をする日を設けて、一緒に関心をもって取り組めるような働きかけをしたりしたことで、親子で登・降園時に夏野菜の生長を観察したり、収穫を楽しんだりする姿が見られた。
 - 冬野菜の栽培活動として、4歳児はラディッシュ・ほうれん草、5歳児は大根やブロッコリーを栽培し、収穫を経験した。冬野菜については、日当たりや日照時間の短さが生長に大きく影響することが分かったので、収穫時期をふまえて計画的に取り組んでいく。
 - 5歳児は、各自の植木鉢で種から冬野菜（ラディッシュ・水菜・ほうれん草・スナップエンドウ）を育てた。種から栽培活動を始めたので、生長の方法に興味をもち、葉の形や生え方などの違いに面白さを感じている様子が見られた。
 - 5歳児は製作活動で金槌を用いた経験を活かし、シイタケの菌付けに取り組んだ。菌付けをしながら匂いをかいでみたり、シイタケができる過程に驚いたりしている姿が見られた。4歳児は次年度の栽培活動に向けて、どんな野菜を育てたいかを話し合ったり、「西野田 SUN サンファーム」の土を耕したりしたことを通して、今後の活動へ期待を高まっている様子が見られる。
 - 夏野菜、冬野菜の栽培や収穫を経験したことをきっかけに野菜への関心が高まり、これまで野菜が苦手だった子どもも、少しずつ自分から「食べてみよう」という気持ちをもてるようになり、収穫して持ち帰った野菜を自ら食べるようになったという保護者の声も聞かれた。
 - 今年度からの取り組みで、年度末保護者アンケートにおいて高評価の回答割合は99%であった。年間の活動を総括して「栽培活動を通して、野菜の生長に関心をもつ」という点では目標は達成したので、進捗状況をAとした。

取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- 毎月、食生活に関する保健指導年間計画に基づき、保健指導を実施した。

月	ねらい	内容	子どもの様子
4月	歯をみがこう	絵本『はみがきれいっしゃ、しゅっぱつしんこう』 掲示物『歯をみがく順番』	手洗い場に掲示した『歯をみがく順番』を見ながら、ていねいにみがく姿が増えてきた。
5月	手洗い・うがいをしよう	紙芝居『ばいきんをやっつけちゃえ』 CD『あわあわ手洗いの歌』	楽しく歌を歌いながら手洗いをする姿が見られるようになった。
6月	姿勢に気をつけて食べよう	掲示物『食べる時の姿勢』	姿勢の掲示物をクラスで活用したところ、食事中に姿勢を意識する子どもが増えた。
7月	朝ごはんをしっかりと食べよう	絵カード『朝ごはんを食べると』	プールカードに朝食摂取欄を設けた。朝食を食べにくい子どもが少量でも食べてくるようになった。
9月	早寝・早起きをしよう	掲示物『1日の生活』	朝起きる時間、夜寝る時間を少しずつ意識できるようになった。
10月	バランスよく食べよう	紙芝居『ばっかりくん』	弁当時に栄養三原色について教師

		掲示物『栄養三原色』	に尋ねる姿が多くなり、食べ物の栄養に関心をもつようになった。
11月	手洗い・うがいでかぜを予防しよう	掲示物『ウイルスが体の中に入る様子』	水が冷たくなってきたが、手洗い・うがいをがんばってするようになった。
12月	自分の乳歯と永久歯を調べよう	カード『はをしらべよう』	カードの歯列に乳歯と永久歯を自分で塗ったり、歯数を数えたりしたことで自分の歯に興味関心をもつ子どもが増えた。
1月	手洗い・うがいをていねいにしよう	掲示物『咳やくしゃみでウイルスが飛ぶ様子』	ウイルスに関心が高まり、しりとりの歌の替え歌を作る時、子どもたちかウイルスという言葉が出てきた。
2月	豆を食べよう	絵本『まめのかぞえうた』	1学期に栽培した枝豆が大豆になることに驚いた子どもが多かった。豆まき時には、におったり、じっと見たりと大豆に関心をもつ姿も見られた。
3月	体の成長を感じよう	絵本『おおきくなるっていうことは』 カード『せいちょうのきろく』	身長伸びや体重の増加を感じることができ、子ども同士で確かめ合う姿があった。

- ・園庭で収穫した野菜と一緒に「やさいカード」を持ち帰ったことで、今まで食べたことがない野菜も食べてみたり、おいしく食べたりする姿を知ることができた。親子で野菜について話し合ったり、子どもが苦手な野菜にチャレンジしたり、保護者も野菜に関心をもつ機会となった。園での収穫物は、残すことなく調理している家庭が多く、少量でも子どもたちが持ち帰ることで食べる経験にもつながっていることを感じた。
- ・冬休みに「あさごはん・やさいカレンダー」を配布し、毎日食べた野菜を記入してもらった。保護者の一言欄から野菜を食べてみようがんばる子どもの姿や毎日の献立で使用する野菜の種類が少ないと感じる保護者の実態があり、毎日野菜を意識して食べることへの啓発になったと思われた。
- ・3学期、玉川小学校の栄養教諭に保護者向けの食育講話をしていただいた。講話をするにあたり、福島区の栄養教諭の先生方に弁当の様子を参観してもらったり、子どもたちの芋ほりの様子を見に来ていただいたりした。当日は保護者からの質問にも答えていただきながら、幼児期に必要な栄養についてや小学校の給食の様子などについての話を聞き、給食に不安を感じておられた保護者も一安心する様子が伺えた。
- ・保護者アンケートでは、年度末の高評価の割合が、94%～100%と目標を大きく上回ったので、進捗状況をAとした。

取組内容⑤【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】

- ・4月より、各クラスで子どもの興味や季節に応じた絵本や紙芝居、素話などを取り入れながら、いろいろなお話に興味をもって聞けるよう取り組んできた。絵本やお話が大好きな子どもが多くなった。12月に2回、1月に2回、講師によるお話の会や図書館ボランティアによる絵本の会を取り入れたことで、さらに興味をもって絵本を見たりお話を聞いたりする姿が見られるようになった。2月の生活発表会に向けて、大好きなお話からイメージをしっかりとふくらませ身体全体や言葉などで、その思いを表現して楽しむことができた。
- ・年8回（5月・6月・9月・10月・11月・12月・1月・2月）「英語であそぼう」を取り入れ、講師の先生と一緒に、英語の歌に合わせていろいろなふれあい遊びをしたり、絵本を見たりした。遊びを楽しむ中で、自然に英語にふれることができ、少しずつ言葉の意味を理解するようにもなってきた。日々の生活の中でも、英語の歌を口ずさむ姿が見られるようになってい

るとともに、英語に興味をもったことから中国などの他国の言葉にも興味をもっている様子も伺える。いろいろな国に関する絵本を用意すると、自ら興味や関心のある国について調べようとする姿も見られた。生活発表会では、英語の歌やいろいろな国の言葉が歌詞となっている歌を取り入れて、保護者に聞いてもらう機会をつくったところ、保護者の関心も高くなったようで「家でも一緒に歌ったり、いろいろな国の言葉を調べたりしています。」といった感想が聞かれた。

- ・年度末保護者アンケート結果では、高評価の回答割合が 99%と目標を大きく上回ったので、進捗状況をAとした。

次年度への改善点

取組内容①【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】

- ・引き続き園内研究や教材研究に取り組み、子どもの発達段階や季節に応じた遊びの内容や指導法を工夫していく。

取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ・引き続き、健康や体を動かす遊びに興味をもてるよう、保護者への啓発を行う。

取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- ・「西野田 SUN サンファーム」の活用の仕方をさらに工夫できるよう見直し、計画的に保育の中に取り入れる。
- ・冬野菜の栽培にも取り組み、季節の旬の野菜に関心をもてるように、継続的にいろいろな野菜に触れて観察していく。
- ・個人鉢で、5歳児は冬野菜を、4歳児はチューリップとクロッカスを育て、生長の様子を観察しながら自然への関心を高める。

取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ・保健指導の年間計画を基に子どもの実態に合わせた指導ができるように担任と連携をとりながら進めるようにしていく。
- ・幼児がさらに野菜に関心をもち、そのことが保護者にも伝わるように指導の工夫やをしていく。

取組内容⑤【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】

- ・引き続き、子どもの興味や季節に応じた内容の絵本を吟味し、読み聞かせを進めたり、いろいろな人からいろいろな話を聞くおもしろさや楽しさを味わえるような機会をつくったりする。
- ・英語での取り組みを日常保育の中で取り入れていき、教育効果を高める。

1 総括についての評価

平成29年度については、年3回の幼稚園評価保護者アンケートを含んだ学期ごとの教育活動アンケート、行事（運動会・作品展・生活発表会）の折に保護者アンケートを実施した。年度末アンケート結果は提出率約96%であった。「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合は15項目が91%以上、1項目が87%であった。

この保護者アンケートの数値結果から、学校運営に関する計画に基づき教育活動を進めてきたことから、一人一人の子どもに様々な育ちが育まれたことや取り組みについての評価を得たとみなすことができると思われる。

中間目標の達成に向けたそれぞれ年度目標について、【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】では、7項目において、数値目標を達成することができた。しかし、1項目については数値目標を達成することはできなかった。しかしその1項目も、学期ごとの推移を見ると3学期の数値が一番高く、一定の成果があったと評価されていると思われる。【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】では、8項目全てにおいて数値目標を達成することができた。

以上のことから、自己評価結果は概ね妥当である。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 今年度末の保護者アンケートにおいて「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園の生活や遊びの中で、いろいろな友達とかかわる機会が多くあった」「年度当初よりいろいろな友達とかかわって遊ぶようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を95%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域の人々や小学生）との交流活動に興味をもつようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より自分の思いを友達に伝えられるようになった」「年度当初より友達の思いに気づき、考えられるようになった」「保護者の方が、人権に対して考える機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を85%以上にする。

○保護者アンケート結果と自己評価分析を総合的に判断したところ、達成状況の評価に関してはほぼ妥当である。

年度目標では、年度末保護者アンケート結果において7項目中6項目において、数値目標を達成することができた。1項目「幼稚園にかかわりの深い園外の人々(地域の人々や小学生)との交流活動に興味をもつようになった」について年度末結果が87%となり、目標の90%以上には届かなかった。これは、小学生との交流活動が4歳児は直接にはないことから評価が低くなったり、複数の小学校へ進学することから進学先の小学校との交流を期待していたりすることが考えられる。引き続き継続して取り組み、子ども達の命を守るためには大変重要な安全に対する意識、幼稚園生活のあ

らゆる体験や経験を通じて人とかかわる力の育成を更に育てていきたい。保護者が人権に対して考える機会も取り組みの工夫をし保護者の意識や関心を高めていけるようにしたい。

年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」「幼稚園は発達段階や季節に応じた遊びを工夫している」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。

○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より栽培活動を通して、身近な自然に親しんだり、関心をもったりするようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を95%以上にする。

○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より手洗い・うがいの習慣が身についた」「年度当初より歯みがきの習慣が身についた」「年度当初より食べ物（特に野菜）に関心をもつようになった」「年度当初より食べる時のマナーについて知ったり身についたりした」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を80%以上にする。

○今年度末の保護者アンケートにおいて「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。

○保護者アンケート結果と自己評価分析を総合的に判断したところ、達成状況の評価に関してはほぼ妥当である。

年度目標では、年度末保護者アンケート結果において、8項目中8項目において、数値目標を達成することができた。また、そのうち2項目においては100%であった。

2年間にわたり取り組んだ体を動かす遊びについては、今後も工夫を重ね取り組んでいきたい。また、今年度から取り組んでいる“西野田 SUN サンファーム”での栽培教育活動は平成28年度の第3回学校協議会において提案されたものであり、その成果は大きく、本園の特色として継続して取り組んでいきたい。

基本的な生活習慣である手洗い・うがい・歯みがき、食に関することについては、家庭の協力、連携が欠かせないので、協力してもらいやすい取り組み内容の工夫もしていきながら、引き続き取り組んでいきたい。

3 今後の学校園の運営についての意見

○運営に関する計画最終評価については、全会一致で了承。

- ・幼稚園裏の畑の活動は、たくさんの保護者に参入してもらうために楽しい企画を考えたことがよかった。日頃の世話をできる範囲で保護者が行ったが、うまく教育とリンクできたように感じる。
- ・一年前の協議会で出てきた案件（幼稚園裏の畑）について、PTA協力し、すぐに行動に移している園の対応が素晴らしい。畑での活動や池でのザリガニ釣りは子どもの情操教育にもつながる。今後もしっかりと取り組んで欲しい。

○幼稚園評価保護者アンケート結果(後期)について、評価基準について検討していく。

- ・保護者アンケートによる評価のみではなく、実際に教育をしている先生たちの評価も知りたい。先生たちの評価が必ずしも保護者のアンケート評価と一致するとは限らない。そこに今後の課題も見えてくるのではないだろうか。
- ・評価基準が90%以上・95%以上というのは高すぎないか。評価をAにするのであれば、もっともっと高い確率にしなければならない。数字で表さなければならないのは分かっているが、評価がどうであったかということよりも、もっと内容について議論する必要があるのではないかと感じる。